

SWSD2014に参加して、ソーシャルワークがおかれている世界的な状況を肌で感じました。国ごとにソーシャルワークがおかれている状況には違いがあり、とりわけソーシャルワークが専門的職業として成立しうるか否かには大きな違いを感じました。また、それぞれの国がおかれている状況も違い、人々の権利を護るために立ち向かう対象や方法も異なっていることが分かりました。

大会期間中に開催された IASSW の総会において **Global Definition** の改訂が承認されました。状況の違いこそあれ、「ソーシャルワークとは何か」に立ち返った時、わが国では十分に上げられてはいなくとも、確かに解決に向けたアクションを必要としている人権の問題が存在していることに気づかされます。世界的な動向は決して他人事ではなく、我々もその動向に関心を持ち続けたいと感じました。次回（2016）は韓国ソウルで開催予定とのことです。我が国からの参加者の輪を広げ、世界的な動向を皆さんで共有していくことも必要ではないかと感じました。

渡辺裕一（武蔵野大学）